



湯河原ロータリークラブ

WEEKLY REPORT



ロータリー： 変化をもたらす

第 2697回 例会
平成29年11月17日 (金)
天候 曇り
合唱 我らの生業
四つのテスト

会長 石倉 幸久
幹事 渡辺 久恭

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上566湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716
例会場 静岡県熱海市泉107 ニューウェルシティ湯河原
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401
例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

人気の日本酒である「醸し人 九平次」を作っている萬乗醸造は、「逆張り」の戦略で商売を成功させております。

例えば、営業部門専属の社員は1人もおらず、社員全員が蔵人として酒造りに関与します。そのことで、自社の酒にまつわる「ストーリー」を誰よりも語れるようになってきているとのこと。また、同業がこぞって、巨大市場であるアメリカに進出する中、萬乗醸造はフランスに進出する道を選び、結果として、今やパリの三ツ星レストランで採用されることとなりました。

現社長が日本酒をワイングラスで飲む、という提案を10年前にした時は、「何を言ってるんだ、こいつは」と言われたそうですが、今や大手酒造メーカーのCMの中に、ワイングラスで日本酒を楽しむ人の姿が映るほど一般的になりました。

右肩上がりの成長が望めない中で商売を成功させるためには、萬乗醸造の社長のように、「当たり前」を疑ってかかる姿勢と「人がやらないことをやる」度胸が必要なのではないでしょうか。

出席報告	ゲスト 1名	ビジター 1名	会員24名
	欠席4(免除者1名)		前回の修正出席率86.96%
	出席率86.96%		前々回の修正出席率95.65%

事前メイクアップ 1名

ゲスト 財団学友会(1999年-2000年度国際親善大使奨学生) 石田康之様

ビジター 国際ロータリー第2550地区しもつけRC 山本郁夫君

幹事報告

ガバナーより

- 「職業奉仕」実践例提供のお願い
各クラブでこれまで取り組まれた奉仕活動の中に、「会員の職業上の手腕を活用したクラブの奉仕活動」がありましたら、ぜひ地区までご提供下さい。
- 渡辺パストガバナーのお別れ会のご案内
神静民報社より
1. 第9グループ連名の年賀広告掲載のお願い
広告掲載料：10,000円
連絡事項 なし

スマイルBOX

ご夫人誕生日 杉山茂久君(由佑子さま・11/20)
山本郁夫君(第2550地区しもつけRC)
所用にて、小田原へ来ました。今日はどうぞよろしくお祈りします。
望月博文君 11月20日、横浜で神奈川県商工会優良人表彰を黒岩知事よりいただきます。



会長挨拶



渡辺幹事(幹事報告)

卓 話

財団学友会（1999年-2000年度 国際親善大使奨学生）
石田康之様

本日はロータリー卓話の機会をいただきまして誠に有難うございます。風光明媚な湯河原に、秋の紅葉の素晴らしい季節に来る機会をいただき、大変に有難く感謝しております。

私は、1999年 - 2000年度にロータリー財団国際親善大使奨学生として、イギリスのウェールズ大学に留学する機会を頂きました。その後、インドのジャワハルラール・ネルー大学大学院の博士課程を経て、外務省や外交・国際問題に関わる研究所・シンクタンクに勤務して、南アジアやアジアの外交・国際問題について実務や調査・研究の仕事に関わってまいりました。私のキャリアの原点にはロータリー財団国際親善大使奨学生としての貴重な留学の機会がありました。私がインドに留学する時には、まだインドの経済発展や台頭が注目をされていなかった時期で、国際問題の専門家を含めて周りから理解されずに馬鹿にされた経験もありました。その後、BRICSレポートが出てインドも脚光を浴びて、近年の日印関係の発展は目覚ましいものがあります。本日はとりわけ3つのポイントをお伝えしたいと思います。（以下、パワーポイントのスライドを用いて要点を説明）

第一に、インドは多様性をもち理解が難しいですが、それは大きな魅力でもあります。とくに国際社会で台頭するインドの今後の動向が大いに注目されます。

第二に、「日本はアジアから信頼されていない」という意見がありますが、親日国インドの日本に対する信頼と期待は極めて大きいことはあまり理解されていません。他方、人的交流や相互理解は未発展であり、インド側の「片思い」の状況といえます。

第三に、近年、日インド関係は急速に発展しており、「自由で開かれたインド太平洋地域」の平和と繁栄に極めて重要といえます。日本とインドの関係は、2000年代以降、グローバル・パートナーシップの協力が急速に発展しています。経済面でも人的・学術交流の面でも、交流が活発化していますが、日本と隣国の中国との交流に比べると、まだまだ交流が限られて未発展な段階です。日インド関係の強化のためには草の根のレベルから人的交流と相互理解が必要とされます。経済協力と経済関係のさらなる活性化も期待されます。アジアの親日国であるインドと日本の交流の活性化と相互理解を私たち日本人は草の根レベルからさらに進めていくことが期待されます。

本日はご静聴ありがとうございました。



石田康之財団学友卓話・紹介常盤会員



室伏会員(スマイルbox)



浅田会員（出席報告）



山本郁夫君（しもつけRC）



杉山会員（ご夫人誕生日）



例会風景

湯河原ロータリークラブ